

のうぜんのだつさり散つて花盛り

山田真砂年

「俳壇 令和三年十月号より」

凌霄は夏の終わりに橙色の花を沢山咲かせる。蔓性の植物で、放っておくと塀や家の壁に張り付いてかなり高くまで伸びる。花期も長い。

掲句、落花しながらも、群れて次々と咲き続ける凌霄の逞しさに驚いている。「散つて」と「花盛り」が対句的に用いられているのが特徴。同時並行的にこの二つが行われているだけに作者にとっても驚きである。花は、落ちた後もしばらくは色変わりすることもなく、鮮やかな色彩を保っているのではなおさら。